

平成21年度 市立岸和田市民病院改革プラン等評価調書

評価点合計による総合評価	B	B
--------------	---	---

資料 3

大別番号	目 標	自己評価	委員評価	取り組み項目	実績報告総括	備考
1	急性期医療の充実	3.0	3.0	○DPC対象化及び一般入院基本料7対1施設基準の取得 ○地域連携クリティカルパスの推進	◇DPC対象病院 平成21年4月1日、7対1看護基準取得 平成21年5月1日 ◇がん診療地域連携パスの中心的役割発揮している。 ◇大腿骨、脳卒中地域連携パスの継続推進している。	
2	救急医療の安定的継続	3.0	3.0	○救急の受入継続	◇救急体制の維持及び、二次輪番体制への継続参加と新体制への積極的参加ができています。 ◇泉州北部小児初期救急広域センターとの小児救急における参加と役割分担の中で二次救急について継続できています。	
3	がん医療の充実	3.0	3.0	○ソフト面の充実(がん診療連携拠点病院としての取り組みについて)	◇がん診療連携拠点病院として求められる役割について ◇医療従事者研修・がん登録・がん相談・普及啓発等の各事業について相応の実績がある。	
4	教育病院への取り組み	3.0	2.9	○医療従事者への教育・研究活動 ○市民向け健康教育活動等	◇看護学生への講義や医療従事者への講義についての実績がある。 ◇市民講座等を積極的に行った。	
5	全体の最適化への取り組み	2.0	2.1	○地域連携室の利用の向上 ○大阪府地域再生計画への提案	◇診療科予約件数も増加傾向にある。 ◇逆紹介率の伸び率が一定レベルに達しているため、地域医療支援病院の指標的条件が整っている。 ◇泉州二次医療圏の病院機能の維持向上に対して提案等を行っているが、当院の方針と大阪府地域医療再生計画との調整努力が必要。	
6	市民等への理解を求める努力	2.0	2.0	○広報活動	◇市民講座などの開催、市政だよりを通じた啓発、地域連携ニュースの毎月発行などの実績をつくっている。	
評価点小計		16.0	16.0			

7	収益の確保	3.0	2.9	○DPC対象化及び一般入院基本料7対1施設基準の取得に伴う単価の向上 ○医師確保、看護師確保等活動と人件費比率	◇一般入院基本料7対1基準の取得達成 ◇医療機能が評価され、一定の患者単価のグレードが上がり、総じて収益の向上が図れた。 ◇看護師確保の努力により、7対1基準が確保できた。 ◇医師についても常勤職員の一定数を確保している。 ◇人件費比率についても収益とのバランスをとっている。	
8	費用の効率化	2.0	1.9	○薬品購買額の低減 ○診療材料費等の圧縮 ○医療消耗備品の購買抑制	◇購買額削減にむけた事務局、薬剤部の協力体制が図れている。 ◇交渉による購買額の抑制は、効果を出しているが、結果として購買額が計画を上回った。 ◇コンサルタントを通じた、ベンチマーク方式により、一定の価格適正化に向けた効果を出しつつも、計画額を上回った。 ◇医療消耗備品は、鋼製小物類の更新が頻繁におき、計画額を上回った。	
9	委託料の見直し	2.0	1.7	○委託料の見直し	◇委託料の全般に渡り、削減努力をおこなった。一部は、投資目的どおり増額させた部分もあり、計画額を若干上回ったが、ほぼ計画額の範囲内とした。	
10	賃借料の見直し	3.0	2.9	○賃借料の見直し	◇賃借料の当初の計画どおりとし、計画額の範囲内とした。	
11	その他経費の見直し	1.0	1.3	○その他経費の見直し	◇評価対象とした勘定科目で、光熱水費など、節減に成功した部分があるものの、事務用品などの節減にむけた検討の余地がある。	
12	医療水準の維持と向上	3.0	2.9	○計画的投資	◇投資については、計画額の範囲内としている。	
評価点小計		14.0	13.6			

合 計		30.0	29.6			
総 評		<p>あり方検討委員会において提言した、市立岸和田市民病院の運営について、この一年の努力を評価します。ただし、評価委員会での指摘事項にもありますように、今後の改善点に向けて、さらなる努力を期待します。なお、医療とは、地域にとって大切な文化であり、「文化」とは、そこで暮らす人々、働く人々の日々の営みの中で生み出して行く物心両面の成果であります。「医療」を考える上で、病院のことを病院の職員だけが考えるのではなく、そこで暮らす人々も考えてゆくことは「責任」であります。</p>				